

【小学校第5学年の実践】

1 主題名

希望と勇気をもってくじけずに【A 希望と勇気、努力と強い意志】

2 教材

米作りの夜明け 中山 久蔵（北海道版道徳教材（小学校高学年用））

3 主題設定の理由【指導観】

(1) ねらいとする道徳的価値について【価値観】

希望と勇気、努力と強い意志とは、自分の目標をもって、勤勉に、くじけず努力し、自分を向上させることに関する内容項目である。児童が一人の人間として自立し、よりよく生きていくためには、常に自分自身を高めていこうとする意欲をもつことが大切であることから、自分の目標をもってその達成に向けて粘り強く努力することについて考えさせる指導が求められる。

第5学年の指導に当たっては、苦しくてもくじけずに努力して物事をやり抜き、失敗を重ねながら夢を実現した人の生き方に触れ、希望をもつことの大切さや、希望をもつが故に直面する困難を乗り越える人間の強さについて多面的・多角的に考えさせ、困難があっても希望をもち続け、より高い目標に向かって努力して物事をやり抜こうとする心情を育てていきたい。

(2) 児童の実態【児童観】

困難があっても希望をもち続け、より高い目標に向かって自己を実現しようとする心情を育てるために、道徳科以外では、次のような指導を行っている。

①算数科

算数科では、授業の冒頭3分間を使って、時間を計測して計算ドリルを行っている。穴あきかけ算や小数のわり算などで、前回解くことができた問題数の記録を示すことで、見通しをもってその日の目標数を設定し、目標達成に向けて意欲的に取り組んでいる。

②体力向上の取組

体力向上の取組では、自分で立てた目標を目指して休み時間になわとびの練習に取り組んでいる。跳んだ回数や跳ぶことのできる技をカードに記録として残していくことで、次の練習では、回数の更新や挑戦する技の練習など、自分で目標を明確にして、一生懸命取り組んでいる。

これらの取組を通して、達成することを見通すことができる具体的な目標については積極的に取り組もうとする姿が見られる。

一方で、運動会などの大きな行事や委員会活動等においては、取り組む前から無理だとあきらめてしまったり、自分に自信をもてないことから、挑戦することをためらってしまったりする児童の姿も見られるなど、結果ばかりを気にかけ、自分の目標に向かって努力することの素晴らしさに気付いていない様子も見られる。

このようなことから、本時の学習では、中山久蔵の生き方に触れながら、困難があっても希望をもち続け、より高い目標に向かって努力して物事をやり抜くことの大切さについて考えさせたい。

(3) 教材について【教材観】

困難があっても希望をもち続け、より高い目標に向かって努力することについて、多面的・多角的に考えさせるために、困難にぶつかりながらも米作りを続け、苦労の末、育てた種もみは無償で配った久蔵の気持ちを中心に話し合い、価値理解・人間理解・他者理解を深めさせる。

本時においては、中心的な発問とそれを効果的にするための基本発問を次のとおり設定する。

1 「◎中心的な発問」の場面

→久蔵が苦労の末、育てた種もみは無償で配った場面

- ◆意 図：①さらに高い目標に向かって努力を続ける久蔵の思いを考えることを通して、困難にぶつかっても希望をもち続け、より高い目標に向かって努力することの大切さに気付かせ、価値理解や他者理解を図りたい。
- ②児童の考えの根拠を踏まえた板書構成を心がけることを通して、より高い目標に向かって努力するという価値の実現に向けては、様々な考えがあることに気付かせ、他者理解を図りたい。

久蔵の思い：自分一人だけの成功ではなく、北海道全体の稲作を盛んにしたいという高い志をもった思い。

2 「○基本発問」の場面

→久蔵が困難にぶつかりながらも、米作りを続けた場面

- ◆意 図：久蔵が直面した困難や努力について具体的に捉えさせることにより、久蔵のくじけそうになる心情や、それでも米をつくることができると信じ、希望をもって努力を続けた久蔵の思いについて考えさせ、人間理解を図りたい。

久蔵の思い：困難にくじけそうになりながらも、自分を信じて、必ずやり遂げる。

4 ねらい

中山久蔵の生き方に触れることを通して、より高い目標に向かって、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜こうとする心情を育てる。

5 学習指導過程

	●学習活動 ○主な発問 ◎中心的な発問 ・子どもの反応	・指導上の留意点 ■評価	「考え、議論する道徳」 に向けた工夫
導 入	● 北海道の米作りに関して知っていることを確認する。 ● かつては稲作困難の地であった北海道が、「中山久蔵」の努力によって可能になったことを知る。	・道産米の種類、北海道の開拓期、現在の東川町の水田などの画像を提示し、関心を高める。 ・ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。	【工夫①】 ・時代背景を分かりやすく示すことで理解を促し、児童の思考の一助とする。
展 開	● 教材「米作りの夜明け」を読み、話し合う。 ○ 中山久蔵の米作りには、どんな困難がありましたか。 ・寒いので、作物がうまく育たない。 ・一人で米作りに取り組んだ。 ・沸かしたお湯を夜通し水田に流し続けた。 ○ 米作りをやめなかった久蔵は、どんな思いだったのでしょうか。 ・どうしても北海道で米を収穫しなかった。 ・やり遂げると決めたから。 ・必ず米ができると信じていたから。 ◎ 久蔵は、どんな思いで、苦労の未収穫した種もみ（米）を無償で配ったのでしょうか。 ・一人でも多くの人に米作りをしてほしい。（希望・勇気） ・命をつなぐ食べ物をもっとたくさん米を収穫したい。（生命の尊さ） ・北海道を豊かな土地にしたい。（勤労・奉仕） ・米作りを教えたい。（勤労・奉仕）	・「困難」について話し合うことで、「努力して物事をやり抜くこと」についての人間理解を深めさせる。 ・希望を捨てない久蔵の姿を確認し、中心的な発問につなげる。 ・他の内容項目（生命の尊さ、勤労・奉仕など）と関連させて、価値理解、他者理解を深めさせる。	【工夫②】 ・久蔵が大きな困難にぶつかりながらも努力を続けたこと、苦労の末に収穫した種もみを無償で配ったことを取り上げることにより、希望をもってより高い目標に向かう久蔵の思いを考えることができるようにする。 【工夫③】 ・児童の発言を予め想定し、道徳的価値を踏まえて黒板に整理して示すことにより、多面的・多角的な思考を促す。
	● 自己を見つめる。 ○ より高い目標に向かって努力するとき、自分が大切だと思ったことを書きましよう。 ・失敗することをこわがらないで、やり抜こうとする気持ちを大切にしたい。 ・はじめからあきらめるのではなく、希望をもって、それに向かっていくことが大切だと思った。 ・続けることは難しいけど、がんばりたい。	・道徳的価値を自分との関わりで捉え、ワークシートに記入させる。 ■ より高い目標に向かって、困難があってもくじけずに努力して物事をやり抜くことの大切さについて、自分との関わりで考えを深めることができたか。	【工夫④】 ・教材から離れ、道徳的価値について大切にしたいと思ったことを記述させることにより、道徳的価値の理解を自分との関わりで深めることができるようにする。
終 末	● 学校生活での活動の様子を撮影した写真を見て、目標に向かって努力する自分たちの生活を振り返る。	・より高い目標に向かってくじけずに努力して物事をやり抜こうとする実践意欲が高まるようにする。	【工夫⑤】 ・学校生活の中での児童の活動の様子を写真や動画で示し、児童の活動を認めることで、今後の発展につなげる。

6 板書

「米作りの夜明け」～ 中山久蔵

現在 日本有数の米の産地

「米をどりたい！」

より高い目標へ

百万石の米をとる！

北海道に米作りを
広めたい。

米の仕事をいっしょに
みんなで協力して努力
をした。

世の中を豊かにしたい。

より高い目標に向かって
努力するとき、大切なこと
たしなむことはできない
けど、あきらめない。
挑戦する。

うまくなりたい気持ちを
大切にす。

命をつなぐ大切な食べ物
北海道の人にお米を食
べて、幸せになっほし。
自分を信じた、絶対でき
やりとげたい。

米を収かく

種もみを
無償で配る

音 稲作に不向き

寒いので作物が育たない
一人で米作りに取り組んだ
もうやめたら？
わがしたお湯を夜通し水田に流し続けた

努力
ダンス、家庭学習
野球、剣道、手伝い...

7 ノート・ワークシート

月 日 通徳ワークシート

『米作りの夜明け』 名前

1. 米作りをやめなかった久蔵は、どんな思いだったのでしょうか。

2. 久蔵は、どんな思いで、苦勞の末に収穫した種もみを無償で配ったのでしょうか。

3. より高い目標に向かって努力するとき、自分が大切だと思ったことを書きましよう。

4
みんなが「むり」と言っている、最初から
それでやめなくて、一度だけでもやってみ
るといことが大切だと思った。

4
初めからあきらめなくて、ど
くもおわりになるならおわりにし
たほうがいいけど、ど
ぶ気もちがたじだと思
う。

4
自分がその事をやると、それを見て
それ、いいなあ、と思ってくれる人
がいるかもしれな
ばればいと思
う。

【授業実践を振り返って】

困難にぶつかっても希望をもち続け、より高い目標に向かって努力することについて、多面的・多角的に考えることができるよう、取り上げる場面や中心的な発問を吟味し、久蔵が大きな困難にぶつかりながらも努力を続けたこと、苦勞の末に収穫した種もみを無償で配ったことを取り上げ、「久蔵は、どんな思いで、苦勞の末育てた種もみを無償で配ったのか。」と問いかけました。児童からは、

- ・北海道を豊かな土地にしたい。(希望と勇気、努力と強い意志)
- ・一人でも多くの人に米作りをしてほしい。(希望と勇気)
- ・命をつなぐ食べ物(米)をもっとたくさん収穫したい。(生命の尊さ)
- ・米作りを教えたい。(勤勞、公共の精神)
- ・自分だけではなく、北海道のみんなに、豊かな生活をしてほしい(勤勞、公共の精神)

といった発言が出され、「希望と勇気、努力と強い意志」、「勤勞、公共の精神」、「生命の尊さ」等の道徳的価値と関連させながら、自分との関わりで多面的・多角的に考え、ねらいとする道徳的価値の自覚を深めることができました。